Jazz Interview Vol.45

世界のジャズ・シーンで大注目の若手トランペッター＆ヴォーカリスト！

ベニー・ベナック三世【Benny Benack III】

優れたテクニックと音楽性、ルックスでも話題のベニー・ベナック三世は、数々のメジャーなジャズ・トランペット大会で優勝を果たし、「Jet Magazine」ではウィントン・マリサリスが選ぶ“ネクスト・ジェネレーション・オブ・ジャズ・グレイツ”にも選ばれた大注目の逸材で、ヴォーカリストとしても高い評価を受けている。

日本では“ニュー・センチュリー・ジャズ・クインテット”のメンバーとしても人気で、最新情報としては、5 月末からアメリカで放送される TV 番組にハウスバンドの一員として出演が決定！　待望のリーダー・アルバムも計画中という正に人気爆発寸前のタイミングで話を聞いた。

【2016 年 5 月　取材・文：加瀬正之】

★ まずは NBC で放送される新しい TV 番組『Maya and Marty in Manhattan』への出演決定おめでとうございます！

僕にとって最初の TV 出演だから、とても興奮しているし、このような番組に出れるなんて全く夢のようだよ。ベーシスト兼作曲家のチャーリー・ローゼン率いる 10 人編成のハウスバンドで、僕はトランペットとヴォーカルを担当するんだ。僕らはホストとスペシャル・ゲストと一緒にステージでミュージカル・ナンバーを演奏したり、キャストとのやり取りや CM の間にはスタジオにいる観客に向けて生演奏も披露するんだ。5 月 31 日スタートで、毎週火曜日の夜に放送されるんだ。放送開始が待ち切れないよ。

★ 現在ニュー・センチュリー・ジャズ・クインテット（NCJQ）の 3rd アルバムのレコーディング中と聞いていますが、どのような作品になりそうですか？

ちょうど 3rd アルバムのレコーディングを終えた所だよ。有名なニューヨークの「Sear Sound」スタジオで録音したんだ。前 2 作はゲストをフィーチャーしたり、バラエティに富んだ音楽スタイルを表現したんだけど、この作品はバンドとして初めて本当の意味で“コンセプト”を持った作品なんだ。『Arise』というタイトルのアルバムで、ジャズ・スタンダードの素晴らしい調和だけでなく、バンドのオリジナル曲の中でメンバー全員をフィーチャーすることも含めて、本当の意味で僕らの最高のクインテット・サウンドのお披露目となるだろう。8 月の終わりにまた日本に行く予定で、NCJQ のツアーやコンサートの他に今回初となる僕ら自身が指導するジャズ・キャンプも東京で開かれるんだ。若いミュージシャンにとって特別なプログラムなるはずだよ。

★ 幼い頃はどんな音楽を聴いていましたか？　また、ジャズとの出会いについて聞かせて下さい。

僕の両親は共にジャズ・ミュージシャンで、祖父のベニー・ベナック・シニアも有名なジャズ・トランペッターだったから、幼い頃からジャズに囲まれて育ったんだ。父が所有していたジャズのアルバム･コレクションを通じて、ニコラス・ペイトン、ジーン・ハリス、オスカー・ピーターソンやモンティ･アレキサンダー、ジョシュア・レッドマンやソニー・ロリンズを体感したんだ。ハリー・コニック・ジュニアのアルバムもたくさん聴いたね。

★ トランペットと歌はいつ頃始めたのですか？　また、トランペットを吹く前は他の楽器を演奏していたのですか？

5 歳の時に両親の薦めでピアノを始めたんだ。8 歳か 9 歳頃までは祖父の古いトランペットを触らせてくれなかったんだけど、本当に好きなものを見つけたんだ！　母は歌手で歌の先生でもあったから、思い出す限り家中で母の歌を耳にしていたよ。彼女は僕に歌わせるようなことはなかったけど、僕が初めて公の場で演奏したのは、母が僕にピアノを弾かせて歌ったミュージカル『The Music Man』からの曲「Gary, Indiana」だったね。

★ 影響を受けたトランペッターと歌手を 3 人ずつ挙げて下さい。

トランペットに夢中になった時、最初はリー・モーガンの燃え立つようなスピリットに、それからクリフォード・ブラウンの技術的に非凡な才能に、その後、フレディ・ハバードのリリシズムと技巧に心を奪われたね。ヴォーカリストとしては、僕はいつもフランク・シナトラと彼の現代版のようなハリー・コニック・ジュニアのエッセンスを取り入れようしているんだ。また、偉大なトニー・ベネットにも影響を受けていて、僕が彼の歳になる頃に出来る限り彼のような素晴らしい歌声を聴かせていたいな！

★ あなたはトランペッター、ヴォーカリスとして特別な音と声を持っていますが、どのように自分のスタイルを築いたのですか？

これは議論を呼ぶような答えかもしれないけど、僕はたくさんのアーティストがユニークであろうと努力しているような、僕“自身”のサウンドを見つけることにけして着目してはいないんだ。技術を身に付けるための最適な方法は真似ること、吸収すること、そして、その 2 つのことの後に革新することだと教わったんだ。恥知らずにも僕のヒーロー達を出来る限り注意深くコピーして、彼らの表現法や“フレーズ”、ソウルやスピリットを僕自身の中に取り入れようとしていたんだよ。僕がインスピレーションを感じるアーティストが増えれば増えるほど、僕個人の音楽が満たされて、ジャズのボキャブラリーがどんどん増えていくんだ。

★ あなたはピッツバーグ出身ですが、現在のピッツバーグのジャズ・シーンについて聞かせて下さい。

恐らくアメリカにおける素晴らしいジャズ・シーンの一つであるピッツバーグで育ったことはとてもラッキーだった。僕は父のバンドで演奏しながら、彼と一緒に演奏した世界的なミュージシャンをアイドル視しながら育ったんだ。ピッツバーグにはジャズ・ミュー

ジシャンのとても豊かな系図があるんだよ。アート・ブレイキーやビリー・ストレイホーンから、アーマッド・ジャマルやジョージ・ベンソンまでね！　僕が成長する過程で最も価値ある経験となったことは、偉大なピッツバーグのドラマー、ロジャー・ハンフリーズのバンドを聴けたり、ついに彼のバンドで演奏出来たことだね。ロジャーは今やピッツバーグのジャズ・シーンにおいて非公式ながらゴッドファーザー的な存在とみなされているんだ。嘗てホレス・シルヴァーとアルバムで共演したり、レイ・チャールズと何年間も一緒にツアーをしたり、ピッツバーグにやって来るジャズ・ミュージシャンは皆、尊敬の念をもってロジャーのジャム・セッションに顔を出しているよ。嘗てビリー・エクスタインやスタンリー・タレンタインがいた頃やジャズの店が盛り上がっていた頃に戻ることはないだろうけど、今もとても活気付いているよ。

★ これまで来日の機会も多かったと思いますが、日本に対してどのようなイメージを持っていますか？

日本を訪れる機会が多いことにとても感謝しているよ。山中千尋と一度、あとは NCJQ で来日しているんだけど、1 年の中で僕のお気に入りの時間は NCJQ が日本でサマー・ツアーをしている時で、今からこのツアーを楽しみにしているんだ。日本の観客は音楽に対する情熱と知識において世界的にも有名で、まるでロックスターのような扱いをしてくれるのは日本だけだよ（笑）。日本の人々は皆、礼儀正しく思いやりがあって、景色も美しくて、食べ物も美味しくて、あと、日本人の女性はとても“カワイイ”よね！　僕のようにまだ短いキャリアなのに頻繁に日本に来て、皆の前で演奏が出来ることは本当に特別なことだね。

★ 自身のリーダー・アルバムをリリースする予定はありますか？また、2016 年の予定を教えて下さい。

今、正に僕のリーダーとしてのデビュー・アルバムのリリースについて計画しているところなんだ。この重要な出来事を今年実現すること。そして、プロモーションを手助けしてくれるレーベルを見つけることが僕の目標なんだ。それによって、NCJQ での活動と他のサイドマンとしてのプロジェクトも続けていきながら、リーダーとしてツアーや演奏が出来ることになると思う。2016 年は既にエキサイティングな年としてスタートしていて、世界中演奏しながら旅を続けることを楽しみにしているよ。7 月には初めてイタリアでツアーの予定があって、それからニューヨークに戻って、6 月 10 ～ 14 日にリンカーン・センターの「Dizzy's Club Coca-Cola」への出演等、リーダーとして幾つか決まった予定が入っているからとてもエキサイティングな気分なんだ。

★ 音楽以外に趣味はありますか？

音楽が常に僕の最高の情熱なんだけど、僕は熱心なスポーツ・ファンで、故郷ピッツバーグのチームに熱狂している。ハイスクール時代に野球をやってたから、ピッツバーグ・パイレーツがお気に入りなんだけど、今ちょうどアイスホッケー（NHL）のカンファレンス決勝に進んでいるペンギンズも大好きだよ。勿論、フットボールのシーズンになるとスティーラーズにも熱狂するけどね。僕は自転車、バスケットボールやゴルフをすることも好きで、長いギグに向けて僕を強く、また、リフレッシュしてくれるんだ。

★ 夢や目標は何ですか？

僕の究極の夢は舞台と映画の両方で演じることなんだ。ハイスクール時代に学校のミュージカルの主役に抜擢されて、歌ったり踊ったりするだけでなく、演じることも出来なければならない音楽ミュージカルへの挑戦は本当に楽しかったよ。ジャズのキャリアで成功を収めて、更に他のアーティスティックな機会も持っているハリー・コニック・ジュニアのようなミュージシャンに視線を向けているんだ。もし僕が彼の成功のいくらかでも模倣出来たら、間違いなく夢が叶うということになるだろうね。近い未来の目標はメジャーなレーベルからリーダー・アルバムをリリースすること。そして、リーダーとして大勢の観客のために世界中演奏しながら旅することだね。

★ あなたにとってトランペットとは何ですか？

僕にとってトランペットは僕の人生そのものだよ。たとえどんなに僕の周りで熱狂的なことがあったり、熱狂的なことに出くわしたとしてもね。トランペットはいつも僕の側にいて、僕が誰なのか、また、僕がしていることの大部分となっているんだ。

★ 最後に「The Walker's」読者と日本のファンにメッセージをお願いします！

「The Walker's」の愛読者である皆さんのサポート、そして、僕もそうであるように強くて熱いジャズに対する情熱を共有してくれることに感謝している。アーティストとして、僕らの技能を完璧にするために何時間費やそうとも、それを披露する観客がいなければ意味がないんだ。音楽を通して、誰かに強い影響を与えていたと知ることほど世界中で気持ち良くなることはないね。日本で素晴らしい観客に向けて演奏する時、僕は謙遜してしまうんだ。僕をまるで王様になった様な気分にさせてくれるからね（笑）。これからもたくさん来日できることを楽しみにしているよ。

Website ⇒ www.bennybenackjazz.com　**YouTube ⇒ www.youtube.com/bbjazziii**
Facebook ⇒ www.facebook.com/bennybenackjazz　**Twitter/Instagram ⇒ @Bbjazziii**

タイム・イズ・ナウ
ニュー・センチュリー・ジャズ・クインテット
（SOL NS-0002）

2014 年 6 月にリリースされた NCJQ のデビュー・アルバム。

イン・ケイス・ユー・ミスト・アス
ニュー・センチュリー・ジャズ・クインテット
（SOL NS-0003）

2015 年 6 月にリリースされた NCJQ のセカンド・アルバム。